

## 令和3年度 横浜市幼保小連携推進地区事業

### 日野地区活動報告 (春日野幼稚園・日野小学校)

#### 推進テーマ

「子どもたちの育ちと学びをつなぐ幼保小連携の推進」

#### 推進内容

- ①計画的な相互訪問と交流活動の実践案作成
- ②交流事業を通じた各職員間の顔が見える関係づくり
- ③幼保から小への円滑かつ有効な情報交換の在り方
- ④子どもの発達についての研修会実施

#### 推進テーマについて

○当地区は、複数の園と幼保小連携を行ってきたが、年間計画や目標設定は曖昧であった。

そこで、これまでの実践内容から課題を検証し、これからの3年間の取組で、必然性があり効果的な連携の形を研究・実践することにより、連携計画を確立し交流事業の活性化を図りたいと考え、推進テーマを設定した。

#### 期待する推進効果

- ・ 幼保小各機関の活動に関する相互理解
- ・ 研修による幼児教育への理解の深まり
- ・ 幼保小においての学びの継続の維持
- ・ 適切で系統的なカリキュラムマネジメントの実践

#### 今年度の活動① 園児と児童の交流

- ◆ 9月  
1年生の遠足(目的地：近隣公園)に幼稚園児が合流し一緒に遊ぶ予定だったが緊急事態宣言発出により中止。(分散登校期間)
- ◆ 10月  
幼稚園児を小学校に招待し、校内を案内したり一緒に遊んだりする予定であったが、5月の運動会が10月実施になったため交流を中止。
- ◆ 1月  
年長園児を小学校に招待し、小学5年生が校内を案内したり1年生が小学校生活を紹介したりする活動を予定していたが、コロナ感染症の急拡大により中止。
- ◆ 2月(予定)
  - ・ 1年生が年長園児に小学校紹介の手紙またはビデオメッセージを届ける。
  - ・ 児童と園児が制作した樹木札取付式に合同で立ち会う。

## 今年度の活動② 職員の交流・研修

### ◆7月

- ・第1回推進委員会。事業目標の確認、年間計画を協議。

### ◆8月

- ・幼稚園・小学校の教育目標等の相互理解を図る合同研修①を予定していたが、緊急事態宣言発出により中止。代替として紙面資料を交換。

### ◆10月

- ・幼稚園運動会を小学校職員が参観 ・小学校運動会を幼稚園職員が参観

### ◆12月

- ・小学校の学習発表会を幼稚園職員が参観予定だったが、コロナ禍の行事変更が重なり見送り。

### ◆1月

- ・小学校授業研究会(1学年算数科)に幼稚園職員が参加。
- ・幼稚園公開保育に小学校職員が参加。

### ◆2月(予定)

- ・第2回推進委員会 年間活動の振り返り 次年度活動計画協議  
入学予定の園児に関する情報伝達訪問。

## 成果と課題

### 成果

#### ◆職員の交流

- (1)幼稚園、小学校とも教育目標の基、指導要領に準じたカリキュラムを編成し、地域の特性を生かした指導・支援計画作成の工夫に力を注いでいることを共有できた。  
また、小学校の研究授業、幼稚園の公開保育を参観することにより、指導・支援の具体と子どもの発達段階への理解を深めることができた。
- (2)運動会を相互に参観することにより、子どもの発達段階に応じた競技内容の工夫、安全対策、役割分担や係活動で自主自立を育む支援などについて実践の具体を見ることができた。また、保護者が幼稚園や小学校に期待している事や求めている事などの相違点を感じることができた。
- (3)コロナ禍のため、施設訪問の職員数は限られたが、管理職や教務担当職員では顔が見える関係を築くことができた。

### 課題

- (1)園の子どもたちが、安心して小学校に入学するための事前体験や在校生との対面交流。スタートカリキュラムに関する園職員との意見交換などが実施できなかった。
- (2)コロナ禍が収束に向かえば、交流する職員数と機会を増やし顔の見える関係を増やしていきたい。
- (3)コロナ禍が依然として継続した場合、子ども同士が対面し共同活動する機会設定が難しくなる。このことを補う手段としてICT活用など、新しい交流方法を考えていく必要がある。
- (4)日野小学校には、20を超える幼稚園・こども園・保育園から子どもたちが入学してくる。本推進事業で培った連携手段を他の園とも共有して活用する方法を考えていきたい。